

# 宝寿の風

第11号  
発行者  
宝寿院住職 田辺信雄  
TEL 62-5739

いあいさつ

宝寿院住職 田辺信雄

檀家のみなさまには、日頃より宝寿院ならびに宗門の護持発展のために、ご理解とご協力をいただきありがとうございます。  
今年令和二年度は、年号が平成から令和に改まり、初めての新年度になります。



お地蔵さん 足下に咲く すみれ草

ところが、この新年度は今までとは全く違う幕開けとなっていました。

中国で発生した新型コロナウイルスが、世界中の国々に瞬く間に万延し、人類がかつて経験したことの無いようなパンデミックを引き起こしています。

しかも、いつ終息するか予想すらつきません。先行きが見通せない、言いようのない不安にかられるものですが、今回ばかりは辛抱強く我慢するしかないようです。

このような時こそ、先祖を思い、ゆつくりとお墓参りなどをしてみてはいかがでしょうか。新型コロナウイルスによる災禍の一日も早い終息と、檀信徒の皆さまのご健勝を御祈念申し上げます。 合掌

## 境内に釈迦像を建立

この度、当院山門西側に大きな釈迦如来の石仏を建立しました。

ここには、以前金銅製（唐金）の観音像が祀られていましたが、永年の風雪による腐食の進行が心配になり、修復をして本堂内に安置しました。

新しく建立した釈迦像は、右手を開き前に向けています。これは施無畏印とい



う印相で、これにより人々の恐れや不安を取り除きます。

また、左手は開いた手を膝の上に軽く下にたれています。これは与願印（よがんいん）という印相で、これにより人々の諸々の願いをかなえます。右手とともに、人々を救済する仏の慈悲を現しています。

宗祖道元禪師は、「感応道交する時、必ず成就するなり」と説いています。

仏への願いに、よこしまな私心がなく純粋なものであれば、その願いは必ず仏に通じ、かなうということです。

来寺の折りには是非参詣し、手を合わせてください。

## 宝寿院の年中行事②

一月二日 新年祝禱会



## 摩訶不思議なおはなし 第六話

これは、今から四十年近く前の夏の夜の話です。当時私は、庫裡二階の北西の部屋に一人で寝ていました。その頃はまだエアコンもなく、窓は開け放しにして寝ていました。

外で人の声が聞こえて目を覚ましましたが、時計を見ると午前一時頃で、聞こえてくるのは墓地の方からでした。

その声はたくさんの子どもが楽しそうにはしゃいで遊んでいるような、にぎやかなものでしたから、決して空耳ではありません。こんな時間に、子どもが、しかも墓地で遊ぶことなど、現実には、絶対あり得ないことだとは思いましたが、なぜか別に怖いとも思わず、そのまま寝てしまいました。実に不思議な現象ですが、このようなことは、その後も何度かありました。

いったいあれは何だったのか。そのことについて、今では、こう思っています。当院の墓地には、医学が未発達な昔、疫病や、今の時代ならささいな病気などで、亡くなってしまった子どもたちがたくさん埋葬されています。

そうした子どもたちの霊が、時空を超えて、時折お墓に集まり、ゲゲゲの鬼太郎の歌にあるように、夜は墓場で運動会みたいな感じで遊んでいたのではないかと。

住職体験談



## 温故知新 二十二夜講

二十二夜講というのは如意輪観音にょいりんかんのんを信仰する女人公で、男衆の庚申講に対するものであり、今の時代で言えば既婚者の「女子会」に相当するものでした。

宝寿院南入り口の右側に、二十二夜講の石塔が三基建っています。



真ん中のものが一番大きく、屋根付きの大名型と呼ばれる立派な石塔です。

この石塔は、天保十五年(1844)に建立されたもので、台座の側面には、当時の女性二十二人の名が刻まれています。

右側のものは、もとは毘沙門で祀られていたもので、如意輪観音像だけが刻まれています。左側は、宝暦十二年(1762)に、東新田講中により建立されたものです。

二十二夜講は、江戸時代中ごろから全国に広まった女人講で、安産を願うとともに、婦人病などの病苦から逃れようと祈願する信仰でした。



二十二夜講の日には、婦人たちが手作りの料理を持ち寄り、二十二夜さまに供えて、如意輪観音の慈悲に救いを求めました。

持ち寄った料理は、お供えた後に、下げて頂くことができましたので、この夜は、婦人たちがつかの間の開放にたれる幸せなひと時であり、みな思い思いに場をはずませ一夜を過ごしました。

また、各自ローソクを持ち寄り、ローソクの明かりの下で月待ちをしました。二十二夜待ちの月の出は遅く、午後十一時半ごろが月の出になります。

つけたローソクは、燃えきらないうちに火を消して、新しいローソクに火を灯しました。また、燃え残しのローソクは持ち帰って出産の時に灯し、二十二夜さまにお祈りすると、ローソクが燃え尽きる前に出産できると言われたそうです。なのでローソクは短い方が良いとされ、大切に保存されたということです。

寄木戸の二十二夜講は、残念ながら今は絶えてしまいましたが、昭和三十七年まで続いていたことが記録に残っています。

賽銭の記録や古いローソク、如意輪観音の掛け軸は、下名地区の故根岸はるさんから預かり、現在まで寺で保管しています。

## 令和元年年回表

一周忌	平成三十一年
三回忌	令和元年
七回忌	平成三十年
十三回忌	平成二十六年
十七回忌	平成二十年
二十三回忌	平成十六年
二十五回忌	平成十年
二十七回忌	平成八年
三十三回忌	平成六年
三十七回忌	昭和六十三年
四十三回忌	昭和五十九年
四十七回忌	昭和五十二年
五十回忌	昭和四十九年
百回忌	昭和四十六年
	大正十年

※法要の申し込みはお早めをお願いします

## 宝寿院護持会役員

(敬称略)

会長 坂本新一

副会長 小沼唯二

坂本勝三

会計 三吉靖典

役員 峯崎 寛

襟川栄太郎

峯崎平弥

服部次男

田村照美

新島克己

坂本雅義

坂本貞雄(新)

※長い間、宝寿院の護持会役員を務めて頂きました清水康司氏が昨年度を以て退任されました。

墓地の清掃や護持会費の集金、寺主催行事への参加や協力など、多大な貢献をいただきました。大変ありがとうございました。お世話になりました。

また後任には、新たに坂本貞雄氏が就任いたしました。よろしくお願い致します。

合掌

お葬式に必要なものはコースに含まれています！

■ 但し、導師へのお布施、葬家により増減のある、返礼品、料理関係はコース外です。

■ 葬儀一式・Aコース  
葬儀・告別式のみの「1日コース」

24 税別価格  
万円

■ 葬儀一式・Bコース  
通夜、葬儀・告別式の「2日コース」

32 税別価格  
万円

対象 式場 ■ 大泉・太田斎場  
■ 宝寿院本堂・檀信徒会館

病院などへの寝台車は、  
24時間・365日 即対応します！



お迎え寝台車  
と霊柩車



追加のでない  
葬具一式



遺影と大写真  
看板類各種



諸手続き代行



司会、葬儀 会食  
スタッフ



羽織 袴、白無垢  
を真綿で手作り



葬儀記録写真  
アルバムにして進呈



ご自宅を白幕で  
装飾

## 安心のお葬式

詳しくはイフまたは、  
宝寿院にお尋ね下さい。



株式会社 イフ

〒370-0115 群馬県伊勢崎市境美原11-16

TEL 0270-27-7722

FAX 0270-27-7723